

地域の子育てで大切なこと

湘北短期大学 亀井美弥子

本日は話したいこと

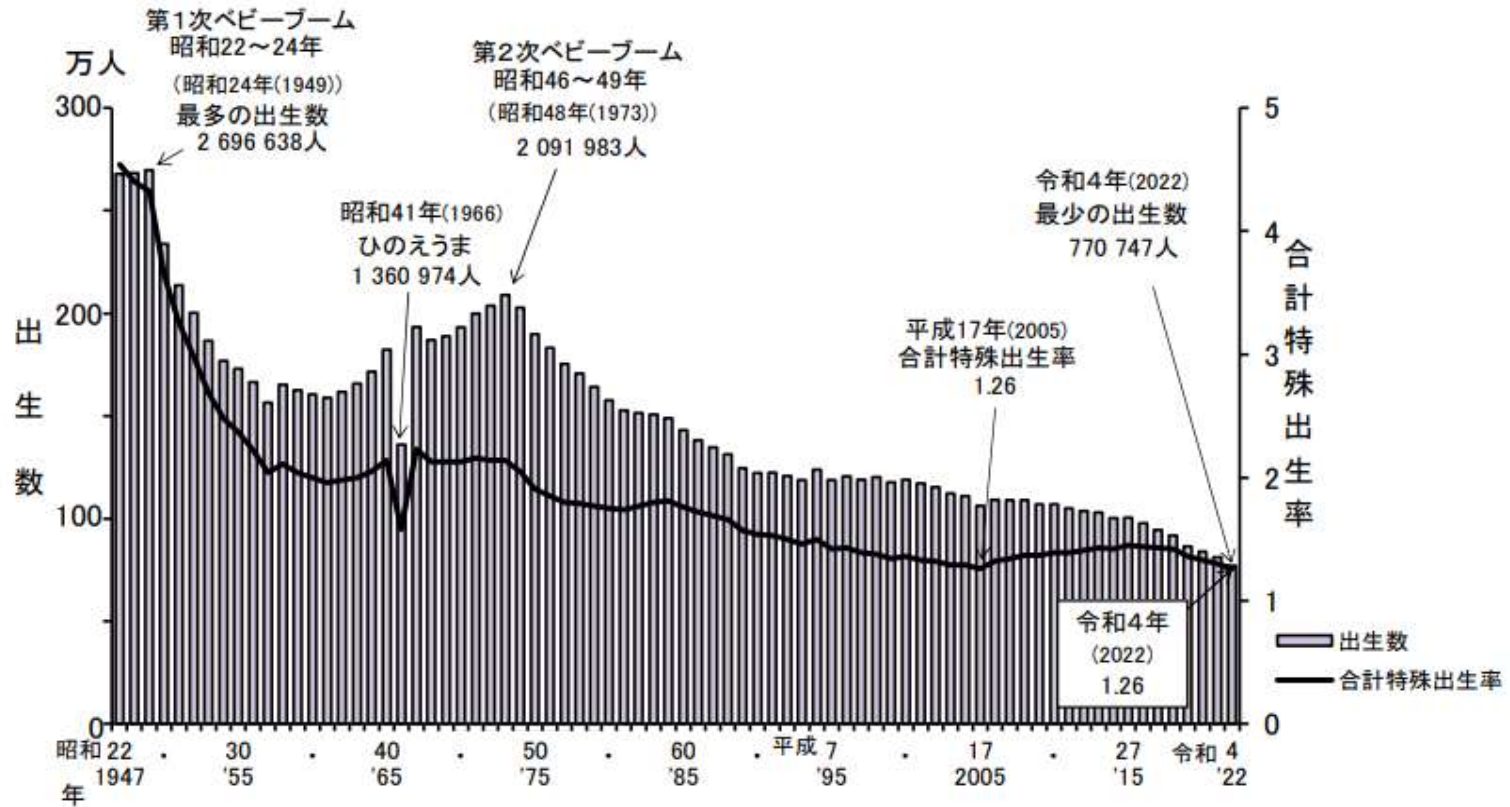
- 子育てをめぐる状況
- 生涯発達心理学と子育て/子育て
 - エリクソンの理論より
- 子育てコミュニティを育む
 - 実践コミュニティの視点から
- 子育てと多世代の関わり—事例紹介



子育てをめぐる状況

子どもや子育て家庭は社会のマイノリティ

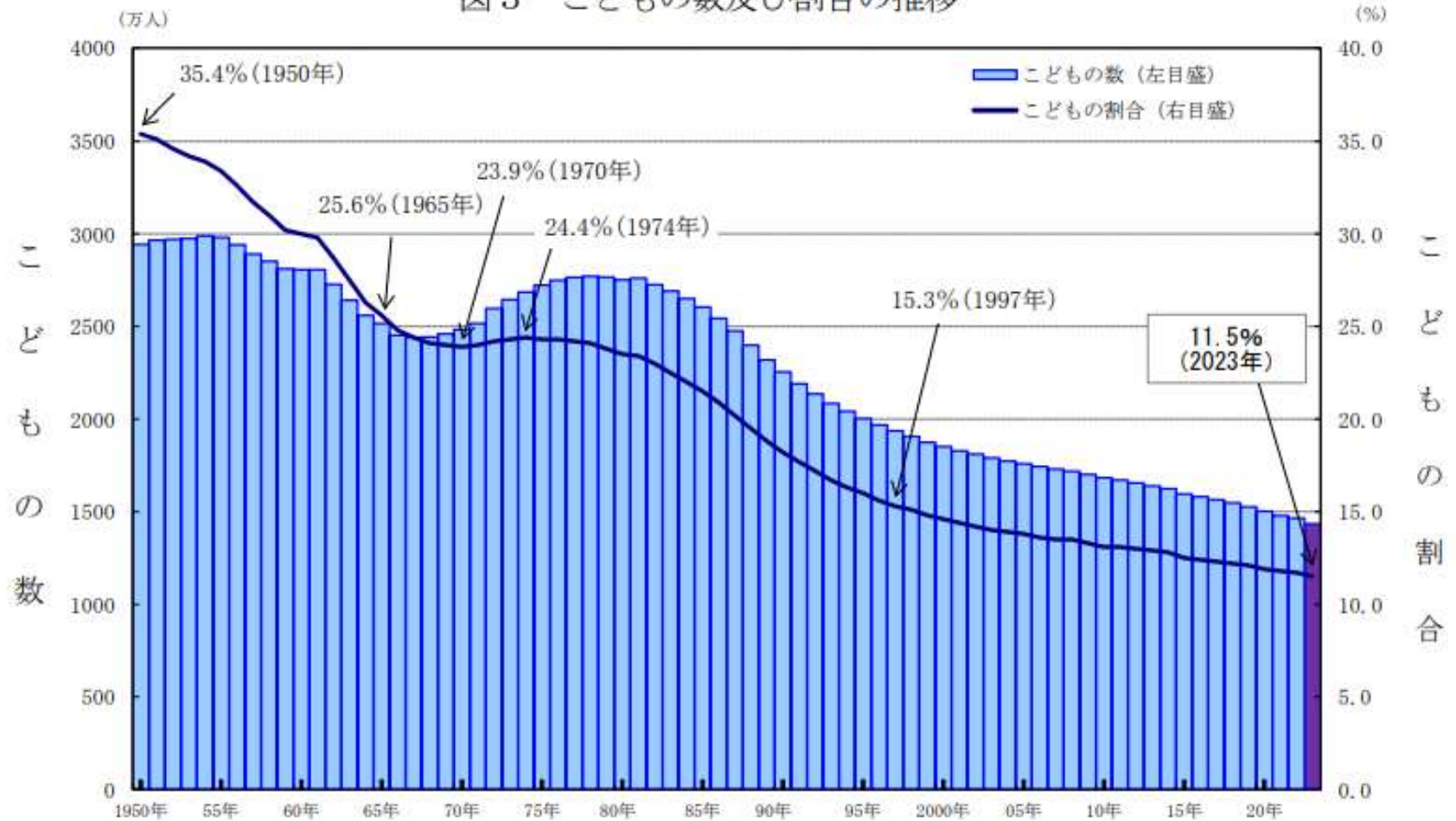
図1 出生数及び合計特殊出生率の年次推移



令和4年(2022)人口動態統計月報年計(概数)の概況 厚生労働省より

出生率過去最低を記録

図3 こどもの数及び割合の推移

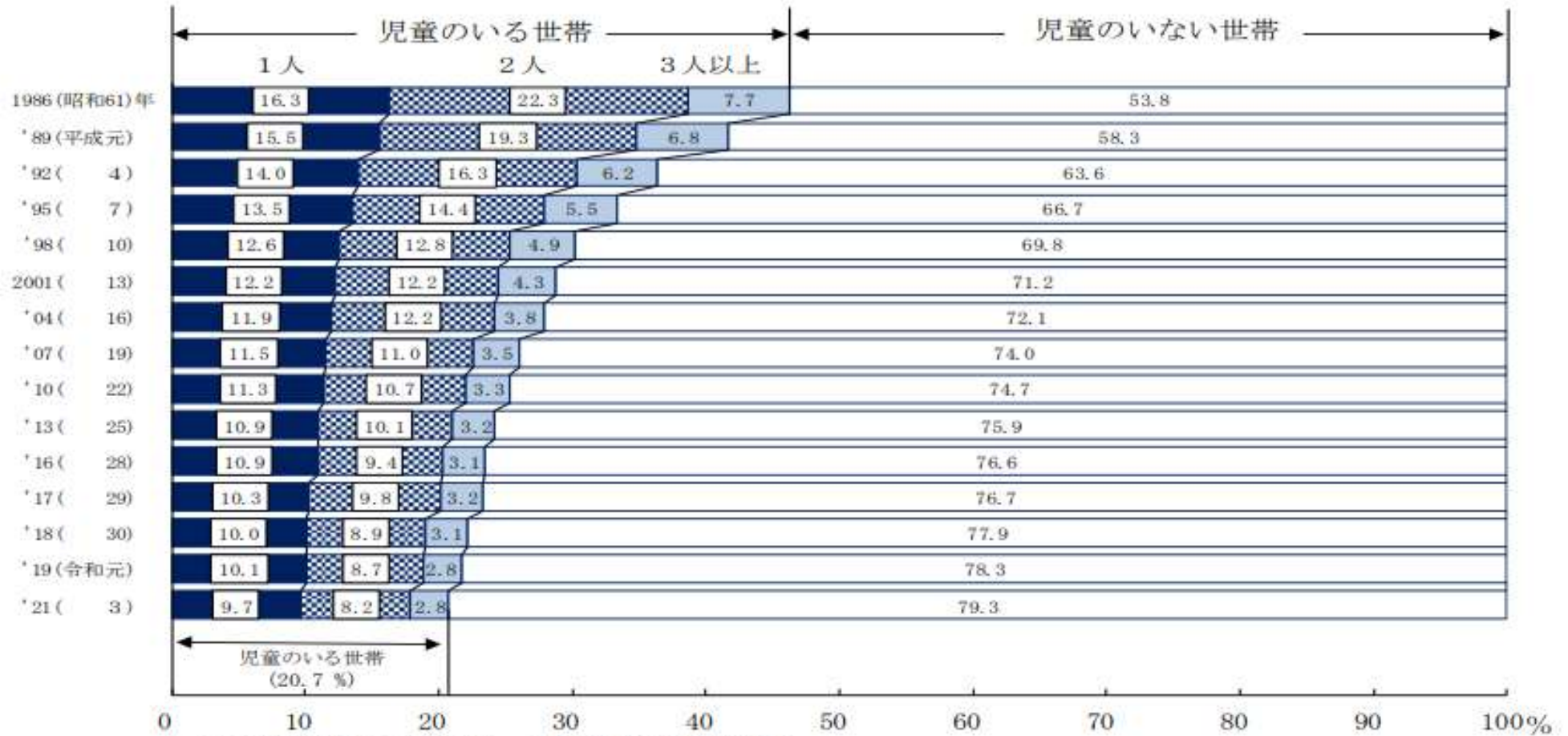


資料： 「国勢調査」及び「人口推計」

注) 2022年及び2023年は4月1日現在、その他は10月1日現在

子どもの割合48年連続減少

図6 児童の有（児童数）無の年次推移



注：1) 1995(平成7)年の数値は、兵庫県を除いたものである。
 2) 2016(平成28)年の数値は、熊本県を除いたものである。
 3) 2020(令和2)年は、調査を実施していない。

2021年 国民生活基礎調査の概況 厚生労働省より

18歳未満の子どもを持つ世帯はこの40年で半分、全体の2割に・・・

子育ての現代的課題

育てる親の困難さ



- ワンオペ育児の身体的・精神的負担 核家族化/長時間労働
- 子育て情報の氾濫 インターネットの普及
- 周囲の評価が厳しい 子育ては親の評価/子育て世帯への風当たり
- 教育にお金がかかりすぎる 将来の不安
- 身近に相談相手や居場所がない 親世代との断絶、仲間探し

育つ子どもたちの困難さ

- 生活時間の変化（習い事/通塾/ゲーム、ネット）
- 遊び空間の減少/体験の貧困（格差）
- 貧困
- 発達障害や外国ルーツの子どもたち（多様性の拡大）



子どもや子育て家庭は社会のマイノリティ

子育ての現代的課題

子育ての超個人化

しかし本来子育ては個人的営みではない

生涯発達心理学と子育て・子育て

エリク・エリクソンの生涯発達理論

- 精神分析の流れをくむ心理臨床家
- 社会と心理の関連性を発達理論に
- 危機を各発達段階における課題として設定
- ライフサイクルとしての一生

乳児期の危機

基本的信頼 対 基本的不信

老年期							統合 対 絶望 英知
成年後期						生殖性 対 自己没頭 世話	
成年前期						親密性 対 孤独 愛	
思春・青年期			アイデンティティ	同一性 対 混乱 忠誠			
学童期				勤勉性 対 劣等感 コンピテンス			
幼児期			自発性 対 罪悪感 決意				
乳児後期		自立 対 恥と疑惑 意志					
乳児期	基本的信頼 対 基本的不信 希望						

エピジェネティック図

★各発達段階にクライシス（危機）を想定している
 ★それぞれの危機はその時期に最も焦点化され、土台となるが、その後も変化・発達する

ジェネレイティビティ概念

■ 成年後期の課題

ジェネレイティビティ vs 自己没頭

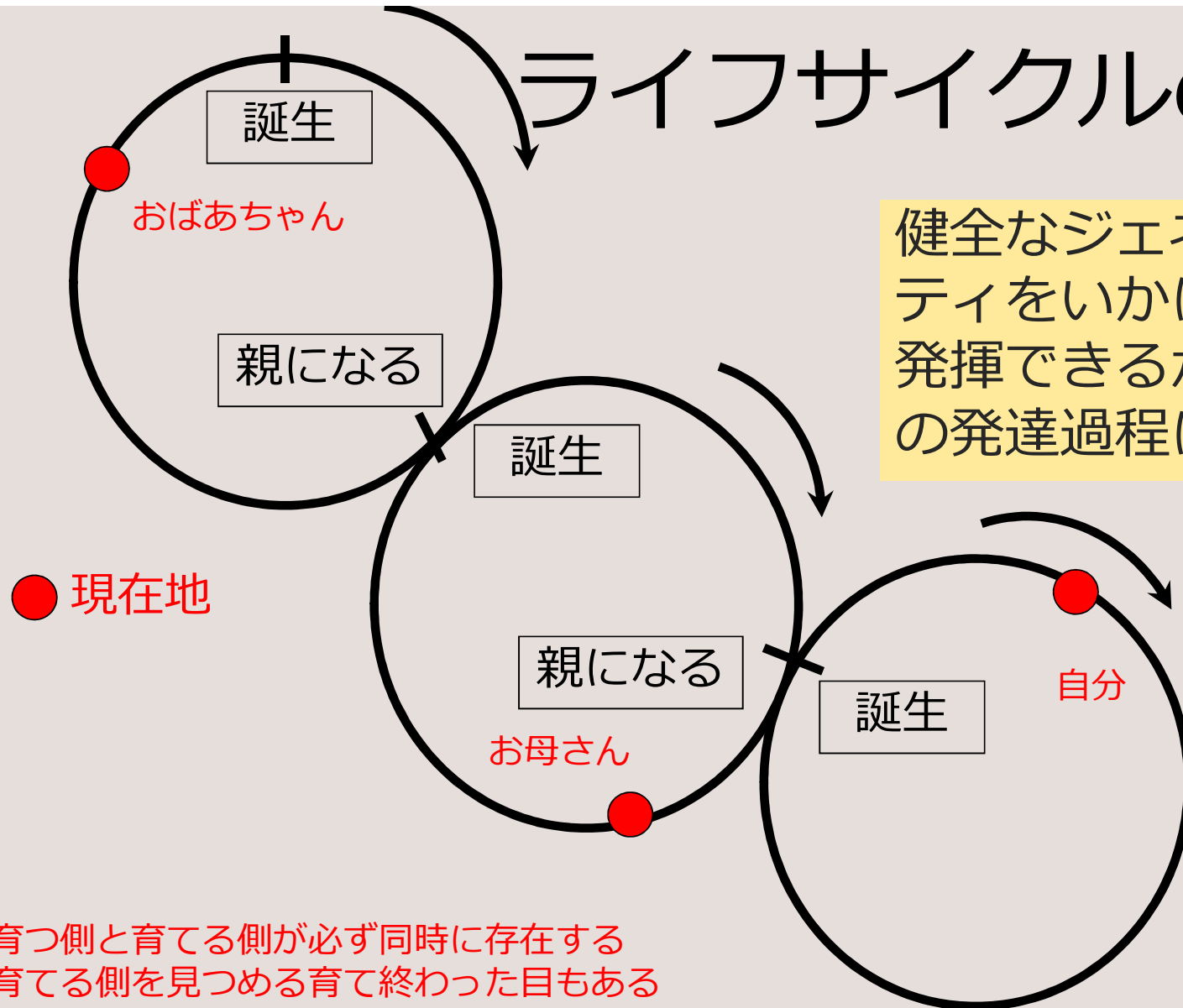
ジェネレイティビティとは

「次世代を産み育てる力」

「文化を生み出す力」

「仕事をする力」

ライフサイクルの連なり



健全なジェネレイティビティをいかに発達させ、発揮できるかが、次世代の発達過程に影響する

- ・ 育つ側と育てる側が必ず同時に存在する
- ・ 育てる側を見つめる育て終わった目もある

**子育て世代
= ジェネレイティビティの獲得期**

この世代にいかに支援を行えるかが次世代を支えることにつながる

子育てコミュニティを育む

人類の子育ての基本は「共同養育」

- 人類は共同で子どもを育ててきたことで繁栄した種といわれている

伝統的な社会 / 他の霊長類との比較

明和政子（2012）「まねが育むヒトの心」岩波書店

子育ての超個人化

さまざまな矛盾が起きている状況



人類の種としての特徴

- 共同養育を行う：コミュニティ全体での子育て
- 人類の育ちの特徴：見よう見まねで学ぶ
例) ごっこ遊び
- 同時に言語で「教示」もできる
・・・人類の発展の基礎



子どもの発達における 大人の文化の模倣例

日本

自作のコンピュータで
遊ぶ子ども (5y)





子育てコミュニティをどうとらえるか

正統的周辺参加 (Lave&Wenger,1991) (Legitimate Peripheral Participation ; LPP)

- 実践コミュニティへの参加が人の**学習/発達**の本質である という考え方

レイヴ&ウェンガー (著) 佐伯 胖 (訳) (1993) 「状況に埋め込まれた学習—正統的周辺参加」産業図書



AI研究、文化人類学フィールドワーク、職場研究などから理論構築



そもそも人が発達・成長・学習するとは 実践コミュニティへの参加が基盤

- 初心者（周縁的参加）からベテラン（十全的参加）へ
- 人や物との関係の変化（仲良くなる/上達する）
- 自分が変わる（アイデンティティ変化）



実践のコミュニティへの参加で起こること

- 未来の自分の展望がみえ、**動機づけ（やる気）**が高まる。
- コミュニティのメンバーとしての**知識・スキル**が身についてくる。
- コミュニティの**メンバーとしての自覚（アイデンティティ）**ができてくる。
- コミュニティのメンバーとしての**矛盾**も。
古参メンバーとの**軋轢（あつれき）**
コミュニティのメンバーとしての**息苦しさ**



今まで「学習」と考えられていたことは実はこの過程

スムーズな参加を導く実践コミュニティの条件

- 周辺の参加から十全的参加へ
- 実践や人間関係に**アクセス**できること
実践の**可視化**（見えること、見て学ぶ）

子育てコミュニティも実践のコミュニティとしてとらえられるのではないか

母親のおつきあいに関する研究（亀井,2008）

「妊娠してるから、掃除のおばさんとかによく声をかけられるたりとか。（ID38：妊娠中）」

「この位の子がいると、この団地でも、気軽に話しかけてくれるって言うか。それは、買い物に出てもそうです。全然知らない人でも、後ろでレジ並んだ人があやしてくる。「大変ね」とか。そういうのが増えたかなって。（ID40：6ヶ月）」

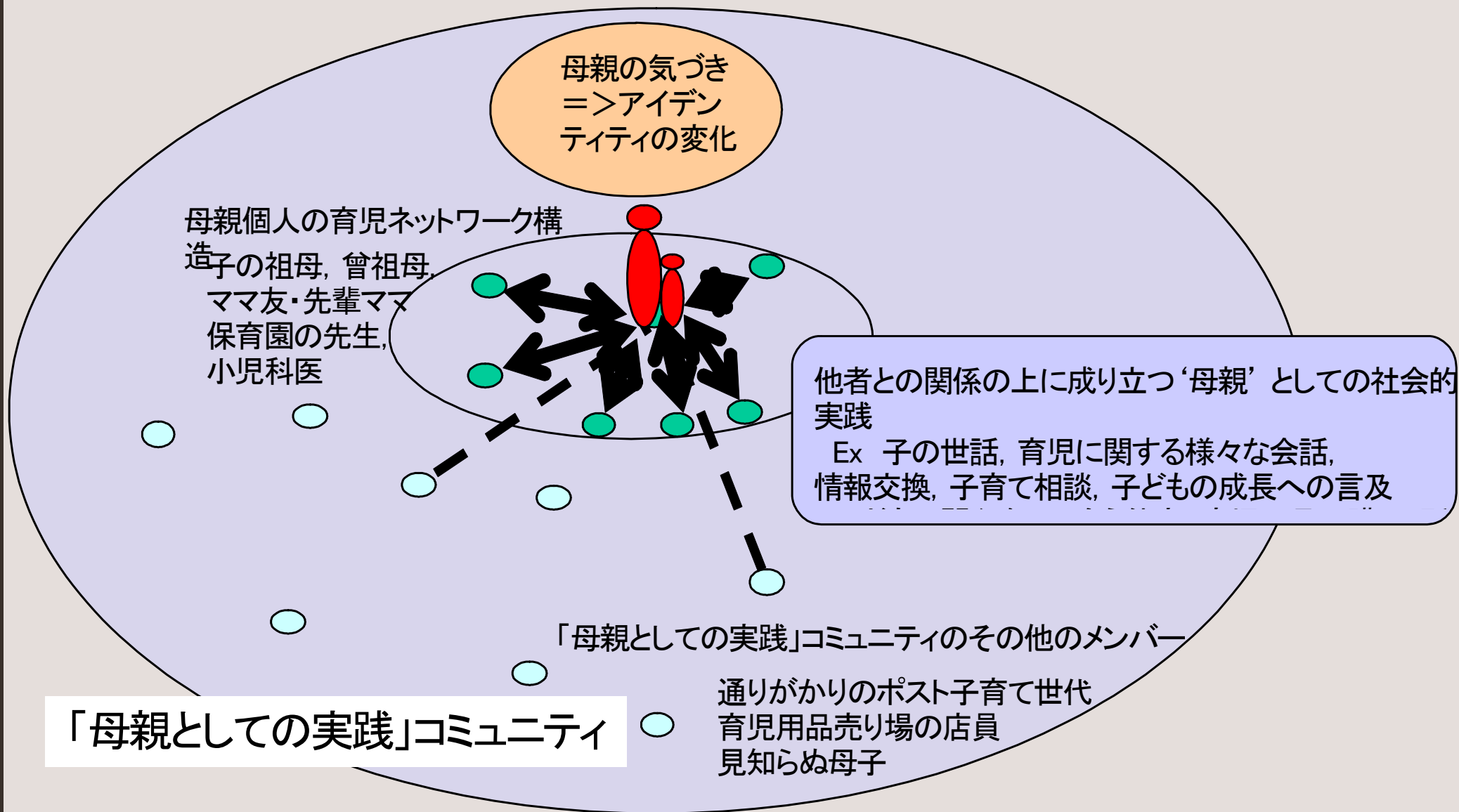
「どっちかという（略）友達としてお子さんがいるからどこか訪ねるのも遠慮していたというのもあるんですけどね、最近では逆にそういう方に何か聞きたいと言うかね、教えてもらおうかなって感じでおつきあいするようになりましたね。（ID10：0ヶ月）」

子育ての実践コミュニティへの参加過程

母親のおつきあいに関する研究（亀井,2008）

- 今までは私の母親，私のおばあちゃんって
いう感じだったのが，母親としてのおばあ
ちゃんっていうのと，母親としての母親っ
ていう接し方をしてるんで，子どもに対し
て対等な感じ。私は教えてもらう立場なん
ですけど，子どもを育てるっていう過程に
関しては，1人の人間として育ててるから，
最近になって対等になった感じがする
（ID30：0ヶ月）

母親アイデンティティは他者との関係から



スムーズな参加を導く実践コミュニティの条件

- 周辺的参加から十全的参加へ
- 実践や人間関係にアクセスできること

現代の子育てコミュニティはどうだろう？

現在の子育ては

- 周辺的参加から十全的参加へ
 - 周辺的参加過程がなく、いきなり実践へ
- 実践や人間関係にアクセスできること
 - 仲間やモデルが少なくマニュアルは多すぎ
- コミュニティのメンバーとの軋轢（あつれき）
 - モデルとなり得る前世代の干渉
- コミュニティメンバーとしての息苦しさ
 - 育児以外の行為へ批判

子育てコミュニティを実践のコミュニティとしてみる視点から

子育てへの学びの深まるコミュニティづくりのためには...

- 周辺的参加から十全的参加へ
- 実践や人間関係にアクセスできること
 - 子どもの成長を日頃から身近に感じる多世代の居場所づくり
 - 子育てを可視化できる街づくり
- コミュニティの古参メンバーとの軋轢（あつれき）
 - 「指導」「教える」から「聴く」「見守る」
- コミュニティメンバーとしての息苦しさ
 - 親であるだけではない自分/多様性のある子育てコミュニティ

子育てと多世代の関わり 事例紹介

事例) 乳幼児ふれあい体験ワークショップ

- 「赤ちゃん誕生は100年のあゆみ」
(2006～2008@町田市)

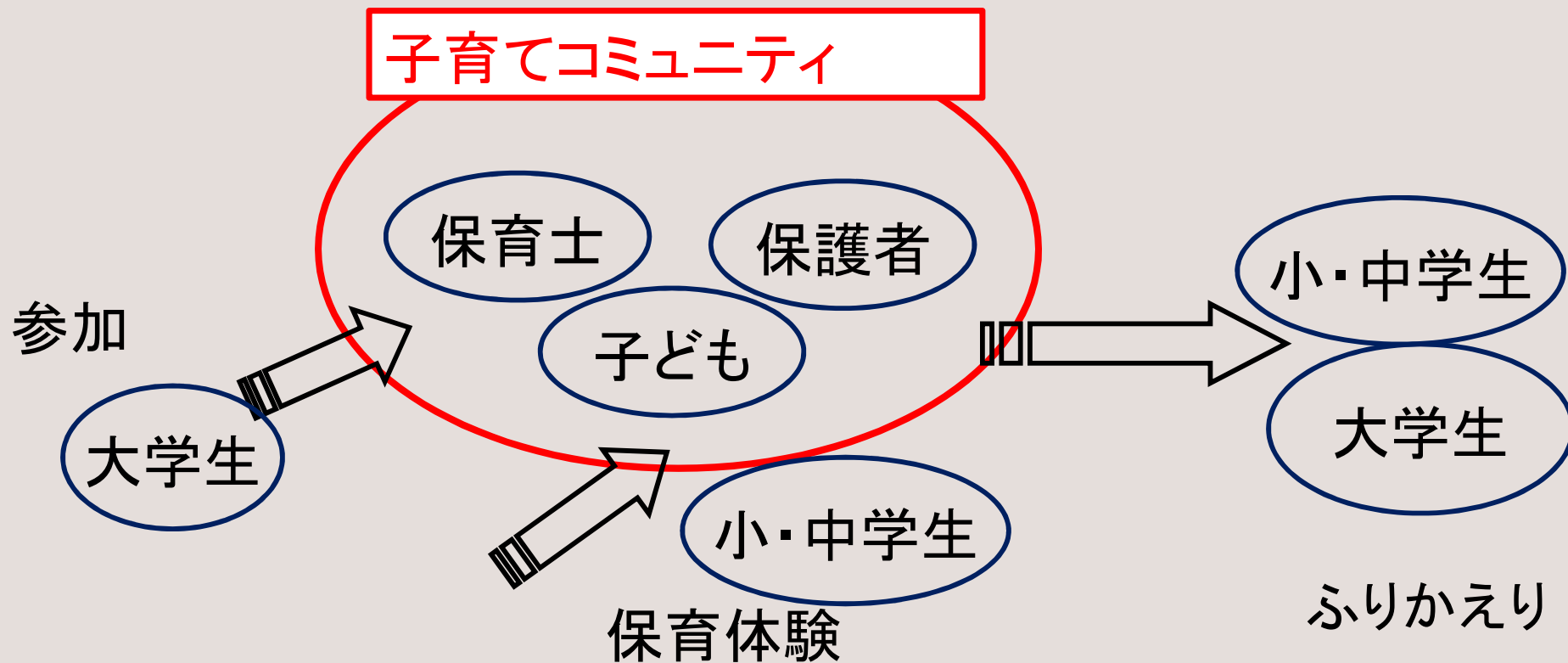
- WSのねらいと特徴

- 1) 「子育ての世界」を体験する
- 2) 自己の存在を社会・歴史的に再確認する
- 3) 多世代間の交流の場をつくる



乳幼児ふれあい体験ワークショップ

- 日常生活の環境を越えて、多世代のメンバーが子育てのコミュニティに参加するWS



事例) 「地域子育て支援論」2年生後期授業

■厚木市児童館「おひさまタイム」訪問

- 1) 子育て広場の運営を理解する
- 2) 保護者との関わりから保護者対応を学ぶ

学生の感想から

- 「乳児の成長スピードに驚いた」
- 「この時期の子ども（の成長）を見るのは保護者も楽しいだろうな、と感じた」
- 「保護者の方も自分のお子さんと私たちの関わりを実際に見て、安心したり心を開いてくれると思いました。」
- 「年齢が違う子供を見て、実際に遊んでいる姿も見られるため、（子どもへの理解が）深まると感じました」
- 「回数を重ねるごとに子どもたちの個性や特徴を理解することができた」

「地域子育て支援論」

- 学生にとって
 - 保育者として
 - 自分の将来の姿として
- 親子にとって
 - 学生からの熱い視線→子育ての価値の再確認
 - 子育ての先にある青年期の姿
- 職員さんにとって
 - 新しい保育の材料が得られる
 - 学生への場の提供という価値

「地域の子育てで大切なこと」

子育てコミュニティを育み、
社会全員が当事者として子育てを見守る

= ジェネレイティビティの養成

ご清聴ありがとうございました